

観光社会資本の事例

テーマ	人々の営みを支える橋、犀川大橋	
【施設の状況写真】		
		
<p>鉄橋大橋としては国内有数の歴史を持つ犀川大橋は、1924年に完成して以来、重要な交通路として人と人をつなぎ、新たな産業や生活文化の創出に貢献してきた。</p>	<p>金沢一の繁華街、片町の南口に位置するこの橋は、夜ともなればネオンの光を大量に浴びて、幻想的な表情を見せてくれる。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>400年の歳月を通じて、人々の暮らしを支えてきた犀川大橋は、現在も県都の幹線橋として、昼夜を問わず多くの車や人々が行き交っている。</p>	<p>橋上にたたずみ、おおらかな犀川の流れと眺望を楽しむ市民や観光客も増えている。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>別名「男川」と呼ばれる犀川に架かるワーレントラス橋。藩政期の架橋から何度も姿を変え、現在の橋は英国製の鋼材を使用し1924(大正13)年に完成した。鉄橋大橋としては国内有数の歴史をもち、国の登録有形文化財にも指定されている。犀川大橋と桜橋の間の川岸は、室生犀星が好み、散策を楽しんだ道といわれ、現在は、「犀星のみち」として親しまれている。犀川の畔には、犀星の文学碑も立てられている。</p>		

テーマ	人々の営みを支える橋、犀川大橋
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 一般国道 159 号 犀川大橋</p> <p>○所在地 石川県金沢市片町～野町・千日町</p> <p>○事業名 ー</p> <p>○事業主体 石川県</p> <p style="padding-left: 40px;">※管理は石川県から建設省(現国土交通省)に移管されている。</p> <p>○事業期間 大正 12 年～大正 13 年</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>○交通の要衝としての役割</p> <p>1924(大正13)年に完成して以来、重要な交通路として北陸の近代化を支え、現在も金沢市の幹線道路である国道157号に架かる現役の橋である。80年経った今日も約3万5千台/日もの交通量に耐えている。</p> <p>○景観形成の効果</p> <p>1994(平成6)年の改修工事において、鋼材の色は、橋と街並み景観との関係が良好に保たれるように、青色系統のグラデーションを施した。歩道についても拡幅にあたり、金沢の景観に馴染むよう柔らかな曲線を取り入れた。また、歩道にはベンチやバルコニー的空間、レトロ調の照明を設け、高欄は金沢情緒を演出する紅柄格子をイメージしている。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 金沢市観光協会 http://www.kanazawa-kankoukyoukai.gr.jp/ 金沢河川国道事務所 http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/</p>	